



日本と アフリカ

外務省



日本から約1万キロメートル以上の遠方に位置するアフリカ。距離はとても遠いのですが、私たちは毎日の暮らしの中で、たくさんの“アフリカ”と出会っています。同じように、アフリカの中にも、さまざまな“日本”があります。世界にアフリカへの支援を呼びかけてきた日本。

東日本大震災で、温かい支援を届けてくれたアフリカ。

私たちの絆は、より確かなものとなっています。

だから、もっと知ってみませんか？

魅力いっぱいのアフリカのこと、日本のパートナーとしてのアフリカのこと。

ガーベラ

花屋さんでよく見かける花、ガーベラ。種類も豊富で、2,000種以上あると言われています。別名アフリカセンボンヤリと呼ばれるように、原産地は南アフリカ。



ワイン

気候に恵まれて高い品質を誇る南アフリカのワイン。生産の中心は西ケープ州で、ここは世界遺産にも登録された植物保護地域のため、環境に配慮したグリーンラベルの取組も始まっています。



スイカ

スイカの起源はアフリカ南部のカラハリ砂漠周辺で、例えばボツワナには少なくとも300種の野生種のスイカが自生しています。現地のスイカは甘くなく、飲み水の代わりのようなもの！



オクラ

アフリカ原産の野菜と言えば、エジプトのモロヘイヤが有名ですが、それ以上に日本の食卓によく登場するのが夏の定番野菜・オクラ。生まれ故郷はアフリカ北東部。

H a n d i n H a n d w i t h a

レアメタル

携帯電話・スマートフォンやLED照明、自動車の排気ガス浄化装置等、日本の主要産業に不可欠な素材・レアメタル。中でも白金、マンガン、バナジウム等をアフリカから多く輸入しています。



ゴマ

健康志向の高まりで注目を集めるゴマ。その原産地はアフリカのサバンナ地帯。日本はブルキナファソやナイジェリア、タンザニア、モザンビーク、エチオピアから輸入しており、主に製油用（ごま油）に利用されています。



タコ

アフリカから輸入されている海産物の代表格がタコ。モーリタニアまたはモロッコ産のタコが多く日本で消費されています。みんなが大好きな「たこ焼き」の中にもアフリカが隠れていますよ。



グレープフルーツ

爽やかな酸味とほのかな苦みが特徴のグレープフルーツ。アメリカに次いで、多く輸入されているのが南アフリカ産で、旬はフロリダ産が終わった6月～11月頃。



01

CONTENTS

アフリカの概要

アフリカの基本情報

03

アフリカの経済成長1

成長大陸アフリカ

05

アフリカの経済成長2

互恵的な関係構築を目指して

07

SDGs

持続可能な開発目標(SDGs)とアフリカ

09

遠

く

て

近

い

、

ア

フ

リ

カ

。



※本パンフレットにおける「アフリカ」は北部アフリカ諸国とサハラ砂漠以南のアフリカ諸国(サブサハラ・アフリカ)を含めた国々(54か国)を対象としています。



写真提供 久野真一 / JICA

西アフリカに育つシアの木の種子から採れる油脂で、現地では食用や薬として用いられますが、ヨーロッパの化粧品メーカーがその効能に着目して製品化したことで有名に。石けんやクリームに配合され、世界の女性を美しくするのに一役買っています。

シアバター



星の王子さま



©岩波書店

不朽の名作「星の王子さま」。作者はフランス人作家、サンテグジュペリですが、その舞台はサハラ砂漠。私たち日本人は、幼い頃からアフリカに出会っていたことになります。

故マータイさん

環境や人権への取組でノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさん。日本の「もったいない」という理念を世界に提唱した、日本人にとっては忘れ得ぬ人です。



M o r e D y n a m i c A f r i c a



チョコレート

チョコレートの原料となるカカオ豆の約80%をガーナから輸入しています。カカオの樹は学名を「テオプロマ・カカオ」といい、テオプロマの意味はギリシヤ語で「神様の食べ物」。



コーヒー

日本は、アメリカ、ブラジル、ドイツに次ぐ、世界第4位のコーヒー消費国。コーヒー発祥の地とも言われるエチオピアをはじめ、タンザニア、ケニア等から輸入しています。

ルイボスティー

南部アフリカの人々の間で飲み続けられてきたルイボスティーは、アフリカに自生する植物から作ったお茶。カフェイン・ゼロな上、抗酸化物質が含まれていることから、健康茶として人気に。



平和と安定
成長の礎
平和と安定のために

11

アフリカ開発会議
日本が主導する
アフリカ開発

13

アフリカ開発会議
TICADプロセスの
発展

15

文化・スポーツ
アフリカ、それは
「いのち」の鼓動

17

アフリカの基本情報

54か国を有するアフリカ大陸は、東西南北及び中部の5つのエリアに区分されます*。
北部アフリカを除くサハラ以南のアフリカは「サブサハラ・アフリカ」と呼ばれています。

アフリカの概要 Africa Now

●アフリカに暮らす日本人は約7,500人(出典：海外在留邦人数調査統計2018年10月)



(ルワンダの首都キガリ)
写真提供:今村健志朗/JICA

西部アフリカ(15か国)



ガーナ共和国
首都:アクラ
人口:3,010万人
主要言語:英語



カーボベルデ共和国
首都:プライア
人口:60万人
主要言語:ポルトガル語、クレオール語



ガンビア共和国
首都:バンジュール
人口:220万人
主要言語:英語、マンディンゴ語、ウォロフ語



ギニア共和国
首都:コナクリ
人口:1,340万人
主要言語:仏語



ギニアビサウ共和国
首都:ビサウ
人口:200万人
主要言語:ポルトガル語



コートジボワール共和国
首都:ヤムスクロ
人口:2,560万人
主要言語:仏語



シエラレオネ共和国
首都:フリータウン
人口:790万人
主要言語:英語、メンデ語



セネガル共和国
首都:ダカール
人口:1,670万人
主要言語:仏語、ウォロフ語



トーゴ共和国
首都:ロメ
人口:820万人
主要言語:仏語



ナイジェリア連邦共和国
首都:アブジャ
人口:2億100万人
主要言語:英語、ハウサ語、ヨルバ語、イボ語



ニジェール共和国
首都:ニアメ
人口:2,320万人
主要言語:仏語、ハウサ語



ブルキナファソ
首都:ワガドゥグ
人口:2,030万人
主要言語:仏語、モシ語、ティウラ語、グルマンチエ語



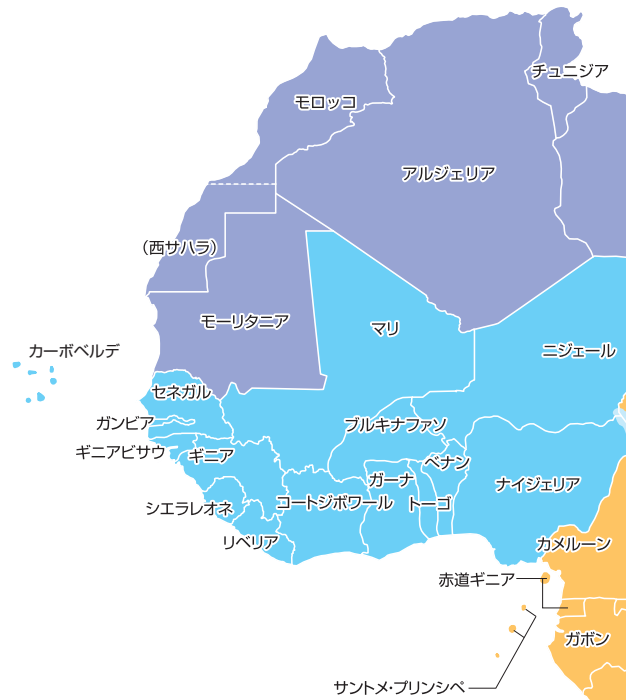
ベナン共和国
首都:ポルトノボ
人口:1,180万人
主要言語:仏語



マリ共和国
首都:バマコ
人口:1,970万人
主要言語:仏語、バンバラ語



リベリア共和国
首都:モンロビア
人口:500万人
主要言語:英語



中部アフリカ(9か国)



ガボン共和国
首都:リーブルビル
人口:210万人
主要言語:仏語、ファン語



カメルーン共和国
首都:ヤウンデ
人口:2,530万人
主要言語:仏語、英語



コンゴ共和国
首都:ブラザビル
人口:550万人
主要言語:仏語、リンガラ語



コンゴ民主共和国
首都:キンシャサ
人口:8,670万人
主要言語:仏語、キコンゴ語、リンガラ語



サントメ・プリンシペ民主共和国
首都:サントメ
人口:20万人
主要言語:ポルトガル語



赤道ギニア共和国
首都:マラボ
人口:140万人
主要言語:スペイン語、仏語、ポルトガル語、ファン語、ピビ語



チャド共和国
首都:ンジャメナ
人口:1,580万人
主要言語:仏語、アラビア語



中央アフリカ共和国
首都:バンギ
人口:480万人
主要言語:仏語、サンゴ語



ブルンジ共和国
首都:ブジュンブラ
人口:1,160万人
主要言語:仏語、キルンジ語

●数字で見る世界の中のアフリカ

国の数
54か国



2011年の南スーダンの独立によって、アフリカの国は54か国となりました(うちサブサハラ・アフリカの国は49か国)。全193国連加盟国の4分の1強を占めています。

人口
約13億1,840万人



アフリカの人口は年々増え続けており、世界の約6人に1人がアフリカ人。ちなみに、サブサハラ・アフリカの人口は約11億1,950万人。

面積
約3,000万km²



全世界の約23%を占める広大な土地を持っています(うちサブサハラ・アフリカの面積は約2,424万km²)。アフリカ最大のアルジェリアは日本の約6倍の大きさです。

●日本に暮らすアフリカ人の国別ベスト3

1. ナイジェリア 3,121人
2. ガーナ 2,369人
3. エジプト 2,080人

出典:法務省「在留外国人統計」2019年6月

出典:UNFPA「世界人口白書 2019」



アルジェリア
カスバ
首都アルジェの丘に建つ旧市街。階段状の狭い路地が家々の隙間を縫うように張り巡らされています。

アンゴラ
ウェルウィッチア
アンゴラ南部からナミブ砂漠地帯の荒野に生息する奇抜な植物。寿命は平均500~600年、中には2000年以上と推測されるものも。



ウガンダ
ナイル川の源
「母なる川ナイル」の源はルウェンゾリ山地のマルゲリータ峰。標高5,109mの山頂に広がる氷河の雪解け水がナイルの最初の一滴。

*アフリカ連合(AU)の分類基準による。



●日本に暮らしているアフリカ人は約1万7,000人以上(出典：法務省「在留外国人統計」2019年6月)



(東京)

北部アフリカ(6か国)



**アルジェリア
民主人民共和国**
首都:アルジェ
人口:4,270万人
主要言語:アラビア語、
仏語



**エジプト・アラブ
共和国**
首都:カイロ
人口:1億120万人
主要言語:アラビア語



チュニジア共和国
首都:チュニス
人口:1,180万人
主要言語:アラビア語、
仏語



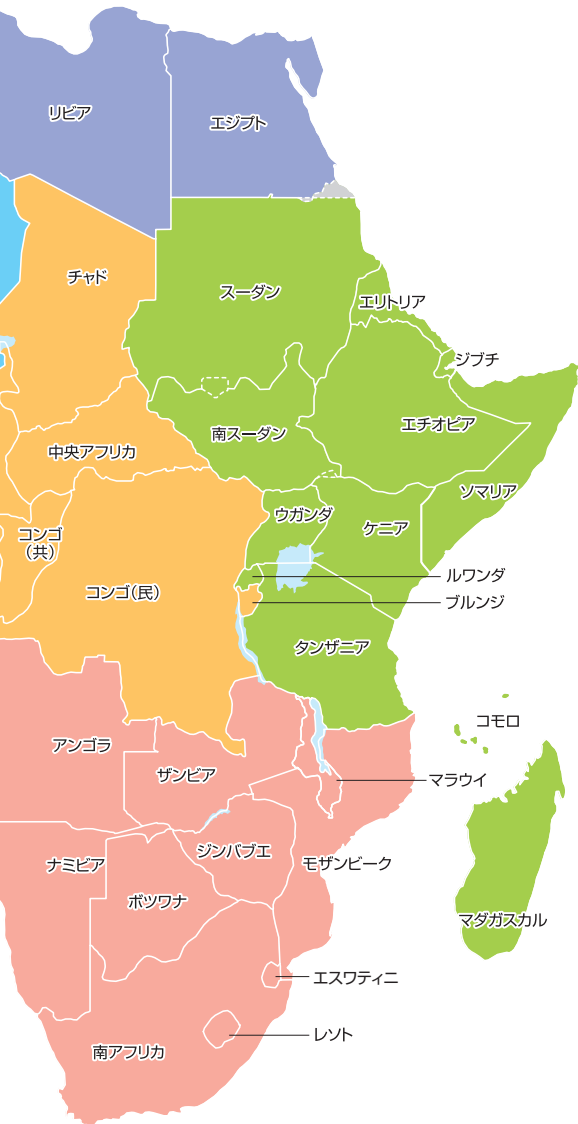
**モーリタニア・
イスラム共和国**
首都:ヌアクシュott
人口:470万人
主要言語:アラビア語、
仏語



モロッコ王国
首都:ラバト
人口:3,660万人
主要言語:アラビア語、
仏語



リビア
首都:トリポリ
人口:680万人
主要言語:アラビア語



東部アフリカ(14か国)



ウガンダ共和国
首都:カンパラ
人口:4,570万人
主要言語:英語、
ルガンダ語、スワヒリ語



**エチオピア連邦
民主共和国**
首都:アディスアベバ
人口:1億1,010万人
主要言語:アムハラ語、
英語



エリトリア国
首都:アスマラ
人口:530万人
主要言語:タイグリーニヤ語、
アラビア語、英語、
諸民族語



ケニア共和国
首都:ナイロビ
人口:5,220万人
主要言語:英語、
スワヒリ語



コモロ連合
首都:モロニ
人口:930万人
主要言語:仏語、
アラビア語、
コモロ語



ジブチ共和国
首都:ジブチ
人口:100万人
主要言語:アラビア語、
仏語、ソマリ語



スーダン共和国
首都:ハルツーム
人口:4,250万人
主要言語:アラビア語、
英語



セーシェル共和国
首都:セクトリア
人口:10万人
主要言語:英語、
仏語、
クレオール語



ソマリア連邦共和国
首都:モガディシュ
人口:1,560万人
主要言語:ソマリ語、
アラビア語、
英語、
イタリア語



**タンザニア連合
共和国**
首都:ドドマ
人口:6,090万人
主要言語:スワヒリ語、
英語



**マダガスカル
共和国**
首都:アンタナナリボ
人口:2,700万人
主要言語:英語、
マダガスカル語



**南スーダン
共和国**
首都:ジュバ
人口:1,330万人
主要言語:英語、
部族言語



**モーリシャス
共和国**
首都:ポートルイス
人口:130万人
主要言語:英語、
仏語、
クレオール語



ルワンダ共和国
首都:キガリ
人口:1,280万人
主要言語:英語、
仏語、
キニアルワダ語、
スワヒリ語

南部アフリカ(10か国)



アンゴラ共和国
首都:ルアンダ
人口:3,180万人
主要言語:ポルトガル語、
ウンブンドゥ語



ザンビア共和国
首都:ルサカ
人口:1,810万人
主要言語:英語、
ベンバ語



ジンバブエ共和国
首都:ハラレ
人口:1,730万人
主要言語:英語、
シヨナ語、
ンデベレ語



エスワティニ王国
首都:ムババーネ
人口:140万人
主要言語:英語、
スワティ語



ナミビア共和国
首都:ウィントフック
人口:260万人
主要言語:英語、
アフリ
カンス語



ボツワナ共和国
首都:ハボローネ
人口:240万人
主要言語:英語、
ツワナ語



マラウイ共和国
首都:リロングウェ
人口:1,970万人
主要言語:英語、
チェワ語



南アフリカ共和国
首都:プレトリア
人口:5,810万人
主要言語:英語、
アフリ
カンス語、
ズール語



**モザンビーク
共和国**
首都:マプト
人口:3,140万人
主要言語:ポルトガル語、
バンツール系諸語



レソト王国
首都:マセルー
人口:230万人
主要言語:英語、
ソト語

出典:UNFPA「世界人口白書 2019」

エジプト

ビール

古代エジプト人も飲んでいたビール。当時、ビールは通貨として流通しており、ピラミッド建設の労賃もビールで支払われていました。

エスワティニ

スワジ・キャンドル

火を点すと、花や動物などの柄が内側から照らし出され、ステンドグラスのよう。ミル・フィオーレという技術が取り入れられています。



エチオピア

コーヒーセレモニー

親しい客を迎えたり、祭礼の際に行われるコーヒーによるもてなし。生豆を煎ることから始め、1時間以上かけてゆっくりと楽しめます。

エリトリア

アールデコの建物

首都アスマラは、イタリア領時代に造られたアールデコ建築が約4,300軒残されており、世界遺産に登録されています。

成長大陸アフリカ

豊かな天然資源や未来の大市場と期待される人口は、いわばアフリカの底力。近年は政アフリカ経済はダイナミックに成長しています。特にサブサハラ・アフリカは、GDP、GNI

アフリカの経済成長 1 Dynamic Africa



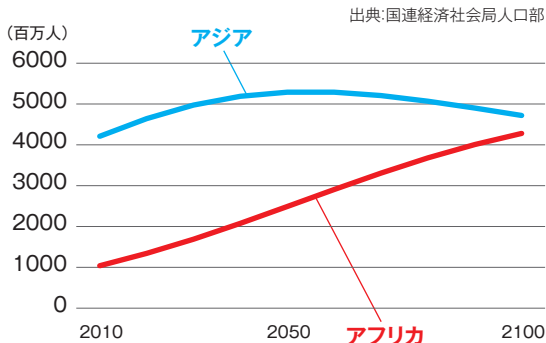
●日本の協力で建てられたセネガルの小学校

写真提供: 今村健志朗/JICA

可能性を秘めた20億人市場

アジアの人口が2060年前後から減少し始めるのに対し、アフリカの人口は今後10年ごとに3億人ずつ増加、2050年には2010年の2倍以上、約25億人になる見込みです。

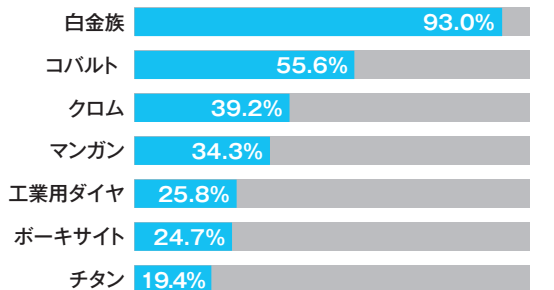
●人口推移予測



豊富な鉱物・エネルギー資源

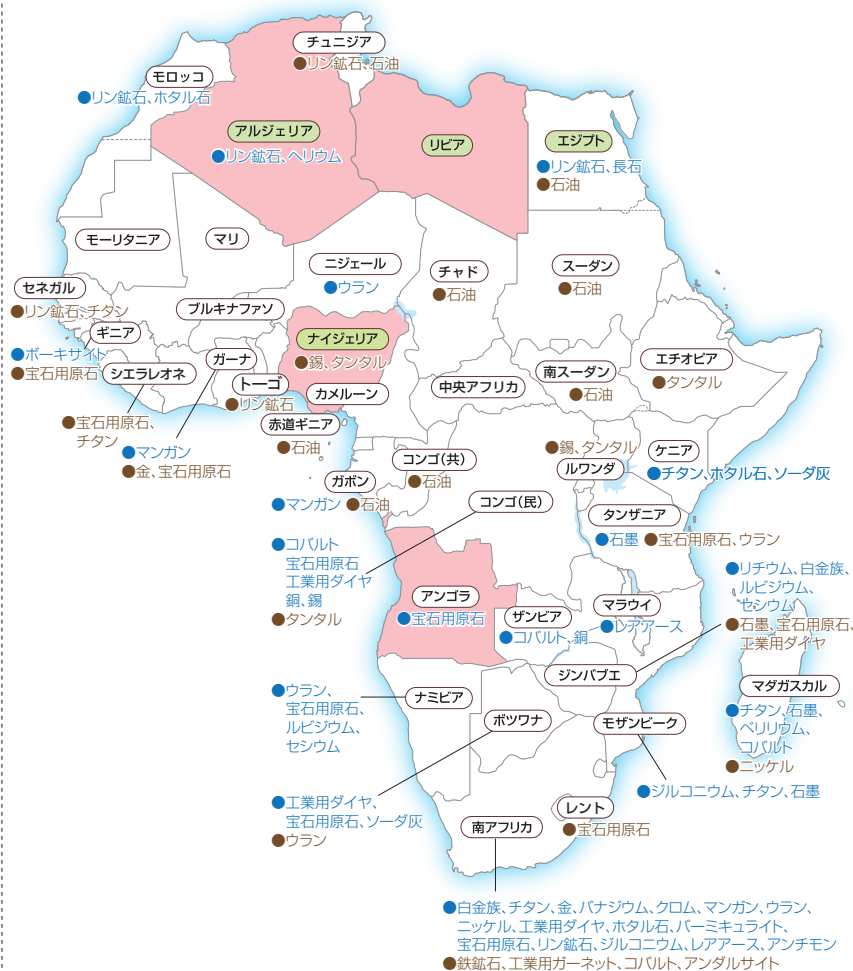
アフリカは天然資源の宝庫。プラチナやダイヤモンドといった貴重な鉱物をはじめ、「産業のビタミン」とも呼ばれるレアメタルも産出します。

●アフリカの主要鉱物埋蔵量の世界に占める割合 (2017年)



出典: U.S. Geological Survey, Mineral Commodity Summaries 2018

●アフリカの鉱物・エネルギー資源



05



ガーナ

カカオ
枝だけではなく、幹にも実をつけるカカオの樹。ラグビーボールのような実が幹にいくつもぶら下がっているのは何とも不思議な光景。



カーボベルデ

故セザリア・エヴォラ
カーボベルデ出身の女性歌手で、1988年発売の「Sodade」が大ヒット。カーボベルデの音楽モルナを世界に知らしめました。

ガボン

熱帯雨林
シュバイツァー博士が医療活動を行った地。ガボン。国土の85%が熱帯雨林に覆われ、ゴリラ等霊長類の貴重な生息地となっています。

治的な安定を背景に海外からの直接投資や内需も拡大し、
ともに世界平均の約2倍という伸び率を誇ります。



●日本の主要産業に不可欠なレアメタル(写真はプラチナ)

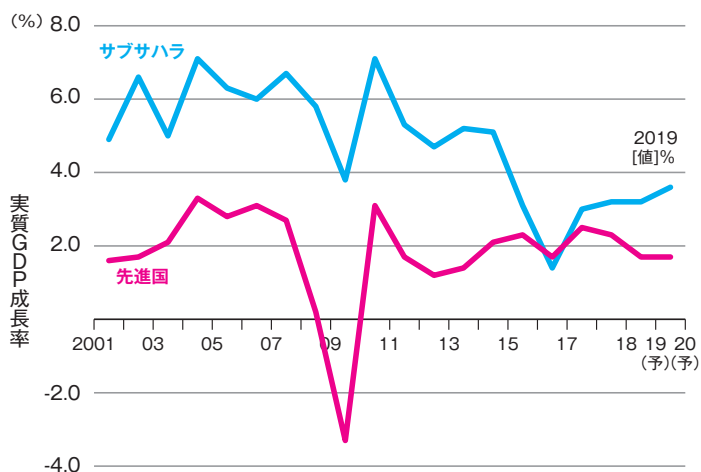


写真提供: JOGMEC

サブサハラ・アフリカは高い成長を維持

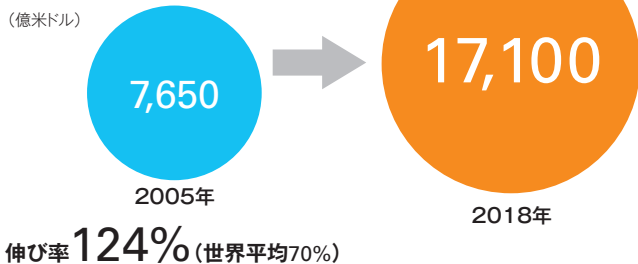
2001年～2018年のサブサハラ・アフリカの平均経済成長率は5.0%で、高所得国の1.8%を上回っています。資源価格の低迷やエボラ出血熱等の感染症の発生により、サブサハラ・アフリカの経済成長率は2013年以降減速しましたが、GDPは2005年と比較して増加しました。

●経済成長率の比較



出典: IMF, World Economic Outlook, Oct. 2019.

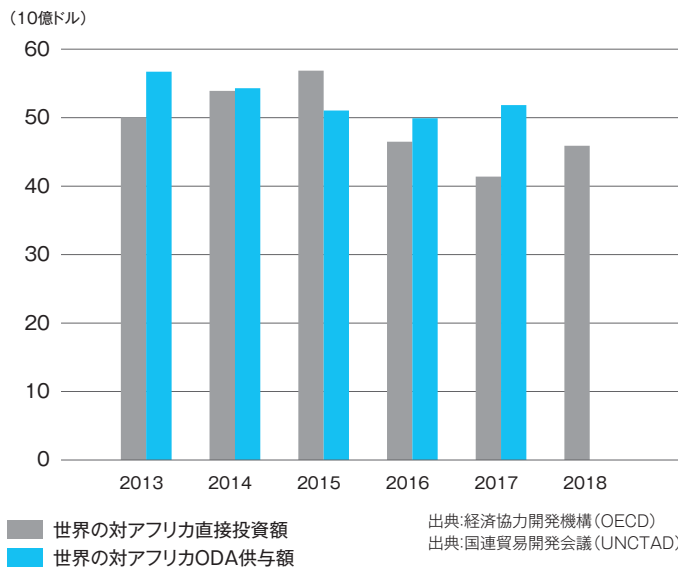
●サブサハラの名目GDPの推移



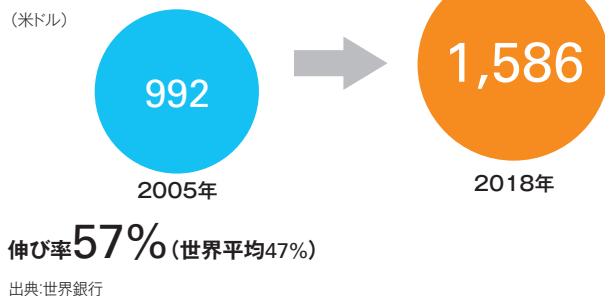
新たな投資先として注目を集めるアフリカ

豊富な天然資源に恵まれ、12億人規模の市場を抱えるアフリカは、近年、世界からの投資先として注目されています。

●世界の対アフリカ援助額と直接投資額の推移



●サブサハラの一人当たりGDPの推移



カメルーン

王国郡

伝統的な文化を維持する多くの王国が存在します。中でも14世紀に建国された西部州バフサム近郊のバムーン王国の王宮が有名です。



ガンビア

小説「ルーツ」

アフリカ系米国人作家アレックス・ヘイリーの自伝的小説「ルーツ」のモデル国。世界遺産のクンタ・キンテ島は小説の主人公の名前に由来。

ギニア

地図

ギニアの国土基本図(地図)を作成したのは日本人。本島建三が率いる測量隊が全土を歩き、5年がかりで地図を完成させました。

ギニアビサウ

カシューナッツ

ギニアビサウの輸出品の大部分を占めるカシューナッツ。ナッツは、カシューアップルと呼ばれるピーマン型の果実の先端になります。

互恵的な関係構築を

日本はアフリカと互恵関係であることを心がけてきました。例えば、日本の企業がアフリカ現地で雇用をつくり、従業員を教育し、さらに地域で学校や病院を建設する等、社会全体

アフリカの経済成長 2

Mutually Beneficial Relationship



写真提供:住友化学

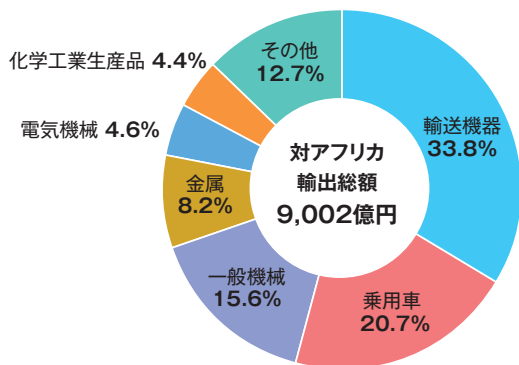
●日系企業で働くアフリカの女性

日本とアフリカの経済関係

2018年の日本・アフリカの貿易総額は、輸出額が9,002億円、輸入額が9,903億円となっています。2016年8月に開催されたTICAD VIなどで、日本は、官民合同でアフリカとの貿易・投資を促進することを打ち出しました。

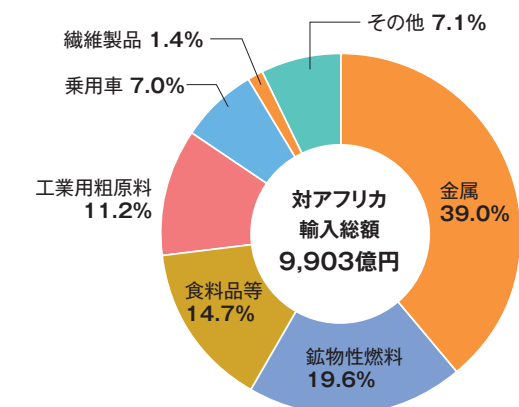
●貿易総額 1兆8,905億円

*出典:財務省貿易統計、JETRO



〈日本の輸出先相手国トップ3 (2016年)〉

1. 南アフリカ: 29.0% 2. エジプト: 14.8% 3. リベリア: 14.2%



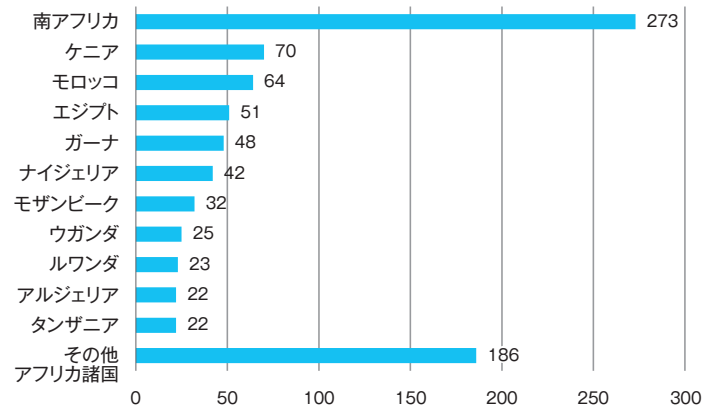
〈日本の輸入相手国ベスト3 (2016年)〉

1. 南アフリカ: 57.7% 2. ナイジェリア: 11.6% 3. アンゴラ: 4.5%

アフリカに進出している日本企業

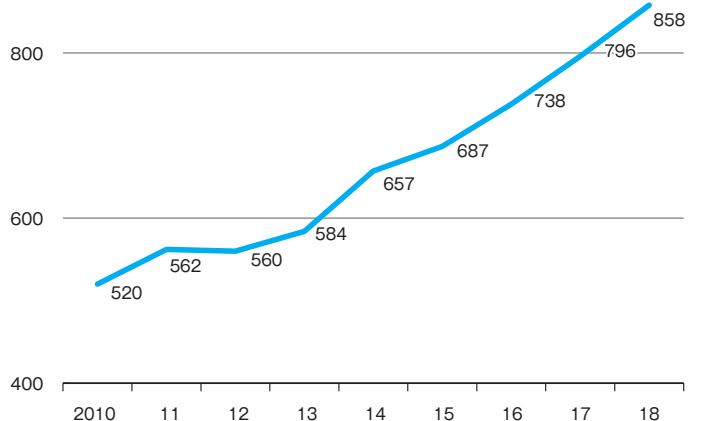
2018年10月時点でアフリカに進出している日系企業の拠点は858。日系企業の進出は年々増えています。2017年時点では製造業(28.4%)、卸売・小売業(24.8%)、建設業(28.4%)、サービス業(6.3%)などの分野に進出しています。

●日本企業の進出拠点の多い国



注) 拠点数には、本邦企業(支店、駐在員事務所)のほか、現地法人(現地法人化された日系企業、本邦企業が出資する海外の現地法人、日本人が海外で興した企業)を含む。

●アフリカ進出企業拠点数の推移



出典:2010-2017年は外務省領事局「海外在留邦人数調査統計」、2018年は各在外公館調査より

07



ケニア

バラ

ケニアの輸出品の第1位は紅茶で、第2位が園芸作物。中でもバラは赤道直下かつ高地という栽培条件に恵まれ日本への輸出も急増中。

コートジボワール

サッカー

アフリカきっての強豪チームで、代表チームの愛称は「レ・ゼレファン(象の意味)」。ドログバ、トゥーレ等、多くの選手が海外で活躍。

コモロ

シーラカンス

コモロの近海で、たびたび捕獲されるシーラカンス。1990年、鳥羽水族館がコモロ政府と共同で調査を実施し、日本で初めてビデオ撮影に成功。



写真提供:鳥羽水族館

目指して

力に進出する場合も、単に資源の確保ではなく、
に対して利益を還元する仕組みをつくっています。

Between Africa and Japan



●ガーナにおける国道8号線の改修工事

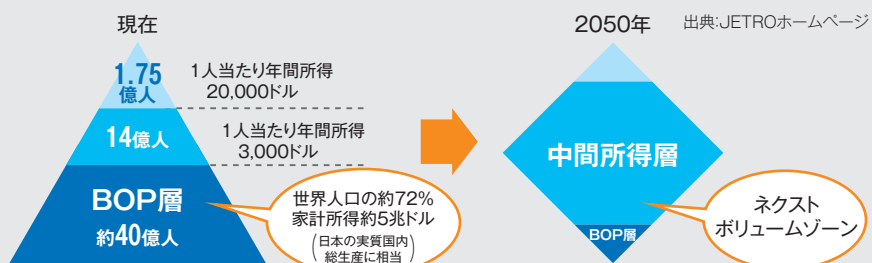
写真提供 飯塚明夫/JICA

日本企業による BOPビジネス

日本は、年間所得3,000ドル以下の低所得階層(BOP)を対象に、雇用と収入機会を生み出すBOPビジネスを推進しています。これによって、日本側には「企業ブランドの浸透」「新たな消費市場の発掘・拡大」が、アフリカ側には「生活水準の改善」「雇用創出」が期待できます。また、ビジネスで得られた利益を社会に還元するため、技術移転や人材育成等にも積極的に取り組んでいます。

●いま、なぜBOPビジネスか？

途上国の急速な経済成長に伴ってBOP層の所得向上が期待されることから、BOP層は新たな有望市場「ネクスト・ボリュームゾーン」として、世界的に関心が高まっています。



●サラヤ

「病院で手の消毒100%プロジェクト」

「100万人の手洗いプロジェクト」をウガンダで開始したサラヤは、2014年にはアルコール手指消毒剤の現地生産・販売を開始し、「病院で手の消毒100%プロジェクト」を始めました。現地のサトウキビ由来のエタノールで作った消毒剤AlsoftVは、人々の雇用も創出しながら、アフリカの社会問題を解決し、持続可能なビジネスを目指しています。



写真提供:サラヤ

●味の素

「KOKO Plus」

離乳期の子どもの栄養改善のために、ガーナの伝統的な離乳食である発酵コーンのお粥(KoKo)に添加する栄養サプリメントを、ガーナ大学と開発。ガーナの食品会社と共同で、2012年より現地生産を開始。味の素、JICA、プラン・ジャパン、ケア・インターナショナルによる官民NGO連携による初のプロジェクトです。



写真提供:味の素

●WASSHA

「LEDランタン」

WASSHAはタンザニアにおいて未電化地域向けの電力サービス事業を展開。現地の購買行動の起点であるキオスク(小売店)を介し、自社開発した太陽光充電式のLEDランタンを、所得の安定しない一般消費者にレンタルしています。「WASSHA」とはスワヒリ語で「明かりを灯す」。その名のとおり、同社は他の企業とも協力しながら、タンザニアの未電化地域に明かりを届けています。



写真提供:WASSHA

●コンゴ共和国

サブール

ファッションに給与の大半をつぎ込みおしゃれをして、ステップを踏みながら街を歩くグループ。武器を持たずに平和を願うのがモットー。



●コンゴ民主共和国

スタッフ・ベンダ・ピリリ

首都キンシャサで路上生活していたポリオ障害者とストリート・チルドレンによるバンド。2009年「屈強のコンゴ魂」をリリース、ヨーロッパツアーも行いました。



写真提供:フランクワン

●サントメ・プリンシペ

ユネスコ生物圏保護区

サントメ島とプリンシペ島、周辺の島々から成る島国で、プリンシペ島は島全体がユネスコの生物圏保護区に指定されています。

持続可能な開発目標(SDGs)

近年のアフリカの経済成長には目を見張るものがあります。しかし、その一方で、サブサハラに苦しんでいるのも事実です。日本は、貧困を終わらせることがアフリカの未来や人々の

持続可能な開発のための2030アジェンダ

●安全なお産プロジェクトで活動する日本人助産師



写真提供レイモンド・ウィルキンソン/JICA

2015年9月、2030年までの国際社会全体の開発目標である「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連サミットにて採択されました。このアジェンダの中核となる持続可能な開発目標(SDGs)には、17のゴールと169のターゲットが設定されています。SDGsの達成に向けて、日本は、2016年5月に総理を本部長とするSDGs推進本部を設置しました。この推進本部の下、「人間の安全保障」の理念に基づいて、政府・自治体・企業・NGO等がそれぞれの強みを活かしながら、オールジャパンでSDGs達成に向けた取組を推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさを守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	

09

素顔のアフリカ

ザンビア

コバルト

埋蔵量・生産量とも世界5指に入るコバルト大国。コバルトはリチウム電池の材料となるレアメタルで、対日輸出の76%を占めます。

シエラレオネ

ダイヤモンド

シエラレオネ産のダイヤモンドは、最高級の宝石用原石の割合が高いことが特徴。映画『ブラッド・ダイヤモンド』の舞台にも。

ジブチ

アッサル湖

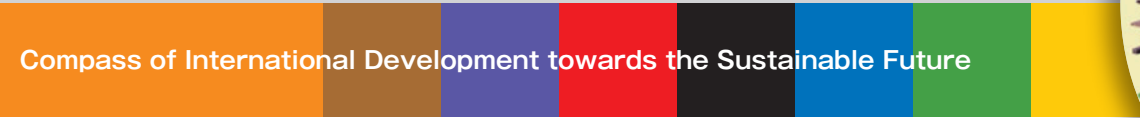
ジブチの中央にあるアッサル湖は、死海よりも塩分濃度が高い塩湖。ここでは、真珠のように丸い塩の結晶を見ることができます。



写真提供船尾 修/JICA

SDGs)とアフリカ

ハラ・アフリカの全人口の約半数が1日1.25ドル未満で生活しており、多くの人が貧困に幸せにつながると考え、国際機関やNGO、民間企業と連携して、積極的な支援を行っています。



●多くのアフリカ人が知っている、黄熱病の研究者、野口英世



切手提供:内閣府

SDGs達成に向けた日本の国際社会における取組

健康的な生活の確保

○日本政府は、SDGs実施を念頭に2015年9月「平和と健康のための基本方針」を策定しました。この方針においては、①公衆衛生危機・災害等に対して強靱な国際健康安全保障体制の構築、及び②ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)(注)の達成に向けた取組を中心に据えています。また、これらの取組に当たっては、③日本の保健・医療に関する人材、知見及び技術を活用していくこととしています。

○このような貢献に向け、日本政府は2019年6月のG20大阪サミットでは議長国として、UHCの達成、健康で活力ある高齢化、薬剤耐性(AMR)を含む健康安全保障についての議論を主導しました。また、これに先立ち、2019年以降約100万人のエイズ・結核・マラリア患者の命を救い、約130万人の子供たちに予防接種の実施を目指す等の表明をしました。さらに、8月のTICAD7においては、保健・栄養等が人的資本開発の基本的な要素であることを認識し、保健・財政当局の連携等を含むUHCの促進に対する更なるコミットメントを表明しました。

○UHC達成においては、すでにケニアにおいては、地方政府やそれを支える中央官庁のマネジメント強化を始め、貧困世帯の健康保険への無料加入及び無償産科サービスの実施に向け支援を実施しています。



健康保険補てんプログラムに加入した住人(写真提供:JICA)

(注)UHC:全ての人が基礎的保健サービスを必要な時に負担可能な費用で享受できること。

ジェンダー平等と女性のエンパワメント

○日本政府は、2016年5月に「女性の活躍推進のための開発戦略」を発表し、この分野における国際協力を強化しています。この開発戦略は、①女性と女兒の権利の尊重・脆弱な状況の改善、②女性の能力発揮のための基盤の整備、③政治、経済、公共分野への女性の参画とリーダーシップ向上を重点分野としており、具体的には、女性に配慮したイン

フラ整備や母子保健サービスの拡大、女子教育や理系分野で活躍する女性の拡大、防災分野をはじめとする女性の指導的役割への参画推進等の支援を通じて、女性の活躍推進と質の高い成長を目指しています。

○たとえば、モザンビークの中等教育への就学率が低い地域において、教室や女子トイレの整備等、女子の学習環境を改善するための支援を実施したほか、コンゴ民主共和国においては、女性の人権と安全を脅かす課題に対処するため、女性警察官の育成事業を支援しました。

○これらの協力を推進するため、日本は、2016年~18年の3年間で5,000人の女性行政官等の人材育成及び5万人の女子の学習環境の改善を実施することや2018年までの3年間で総額30億ドル以上の支援を行うことにコミットし、支援を行いました。



市民と平和のための警察研修実施能力強化事業(コンゴ民主共和国)(写真提供:JICA)

実施手段とパートナーシップの強化

○SDGsは、17のゴールと169のターゲットがあり、それぞれの分野に関心を持つステークホルダーが協調し、SDGsの実施に当たる必要があります。

○国連人間の安全保障基金は、1999年に日本が主導して国連に設置された基金であり、人間の安全保障の理念に基づき、分野横断的かつ包括的なプロジェクトを実施することで、人間の安全保障を脅かす根本原因を取り除くことを重視しています。特に、複数の国際機関が共同でプロジェクトを実施することを義務づけており、このことは、活性化されたグローバル・パートナーシップを標榜するSDGsを実施するために有益なアプローチと言えます。

○日本は、1999年に創設に尽力して以降、一貫してこの基金を支援してきており、2018年までに4億ドル以上の拠出を通じ、96か国において248プロジェクトを実施することに貢献してきました。



エジプトにおけるバイオマスエネルギーを活用した起業家支援プロジェクト(5つの国際機関による合同プロジェクト)

ジンバブエ

ビクトリアの滝

ザンビアとの国境にまたがる世界三大瀑布の一つ。地元では「モシ・オトゥニャ(雷鳴轟く水煙)」と呼ばれ、数キロ先からでも水煙が見えます。



写真提供:庄司康治/JICA

スーダン

2つのナイル

青ナイルと白ナイルが首都ハルツームで合流。橋の上から、色の異なる両ナイルが合流する様子を見ることが出来ます。

セーシェル

インド洋の真珠

世界に名だたるリゾート・アイランド。イギリスのウィリアム王子とキャサリン妃の新婚旅行先としても話題になりました。

赤道ギニア

パンヤの木

国花は、国旗にも描かれているパンヤの木です。種子から植物油がとれるため、「神の木」と呼ばれています。

成長の礎、平和と安定

1990年代に比べ、多くの紛争や内戦が収束したものの、サヘル地域、チャド湖地域、ソマリア、コンゴの発展に平和は不可欠。日本は国際社会の一員として平和の定着を支援するとともに、アフリカ自

平和と安定 Peace and Stability

●独立記念式典に集まり、喜びを分かち合う南スーダン市民



写真提供: JICA

日本が行うアフリカの平和と安定のための取組

アフリカには、複雑な背景をもつ紛争やテロなどの脅威が残っています。国づくりの基礎となる平和と安定を実現すべく、日本は国連PKOへの要員派遣やPKO訓練センターを通じて貢献しています。また、アフリカ諸国が自らの手で平和と安定を実現できるよう、日本は様々な支援を行っています。



南スーダンのジュバにおいて道路整備を行う自衛隊の施設部隊 (写真提供: 防衛省)

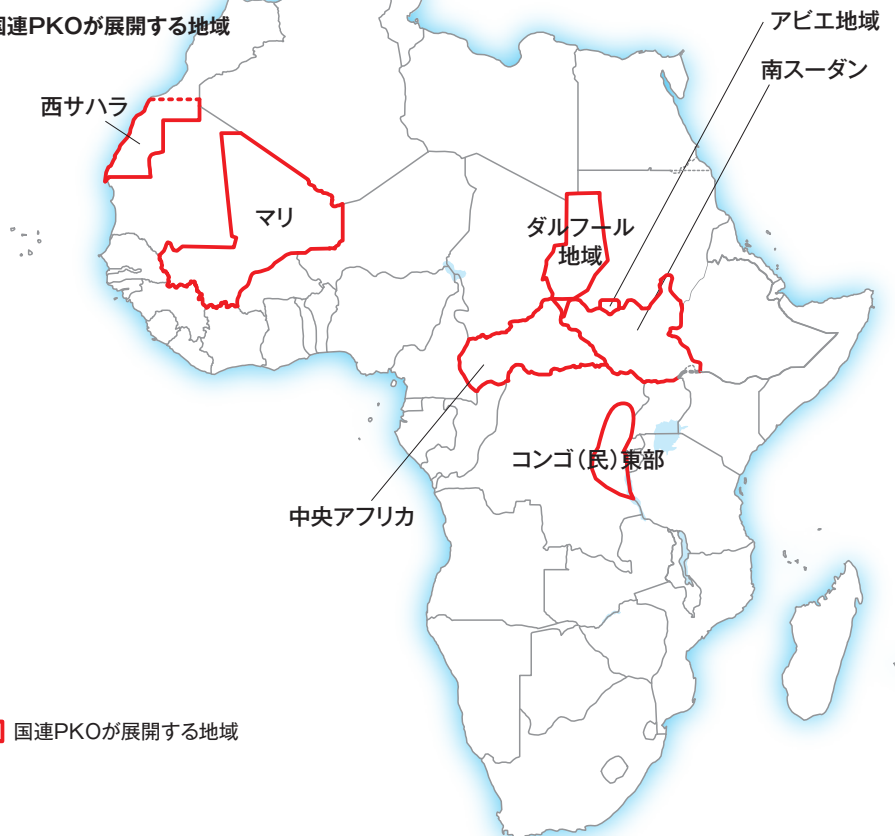


コンゴ(民)における警察研修 (写真提供: 久野真一/JICA)



シエラレオネの変電所で現地技術者に計器の使用方法を教えるJICA専門家 (写真提供: 飯塚明夫/JICA)

●国連PKOが展開する地域



□ 国連PKOが展開する地域

●現在アフリカに展開する国連PKO

国連西サハラ住民投票監視団	(MINURSO)	231名	1991年4月～
ダルフル国連・AU合同ミッション	(UNAMID)	6,577名	2007年7月～
国連コンゴ(民)安定化ミッション	(MONUSCO)	16,747名	2010年7月～
国連アビエ暫定治安部隊	(UNISFA)	4,172名	2011年6月～
国連南スーダン共和国ミッション	(UNMISS)	16,683名	2011年7月～
国連マリ多面的統合安定化ミッション	(MINUSMA)	13,576名	2013年3月～
国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション	(MINUSCA)	13,348名	2014年9月～

(注: 軍事・警察要員のみ) 出典: 国連PKO局HP 2019年10月現在

11

素顔の アフリカ

セネガル

ユッサー・ンドゥール

セネガルが生んだ世界的なポップ・アーティスト。メッセージ性の強い作品から「歌うジャーナリスト」とも呼ばれています。

ソマリア

イルワド・エルマン

2019年のノーベル平和賞候補。「銃を捨てペンを持とう」と標榜し、暗殺された父の意志を継ぎ、同じく活動家の母と活躍中。

タンザニア

キリマンジャロ

標高5,895m、アフリカ大陸の最高峰。山頂にある氷河は、ヘミングウェイの短編「キリマンジャロの雪」のエピグラフにも登場。



のために

ゴ民主共和国東部、中央アフリカ、南スーダン、リビアなど依然として不安定な国・地域もあります。らが平和を維持する能力を高められるよう、PKO訓練センターに対して資金的・人的な支援を続けています。



写真提供:エチオピア政府

●2019年ノーベル平和賞を受賞したアビィ・エチオピア首相

アフリカの平和と安定のため汗を流す日本人

1993年、自衛隊が国連モザンビーク活動(ONUMOZ)に派遣されて以来、アフリカでの平和維持活動(PKO)等に多くの自衛官・海上保安官が参加してきており、アフリカの平和と安定のため活躍しています。

平和維持訓練センター(PKO訓練センター)への支援

日本は、平和維持活動等に従事するアフリカ人要員を養成するため、PKO訓練センターに様々な支援をしています。平和維持に関する日本の知識と経験をアフリカ諸国と共有するため、自衛官や民間の専門家を講師として派遣するのも、その一つです。

●アフリカにおける平和と安定を産み、育て、守るための日本の協力

国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)で活躍する自衛隊

2011年7月に独立した南スーダンでは、UNMISSに派遣されている司令部要員4名が活動しています。

※施設隊は2017年5月末に活動を終了

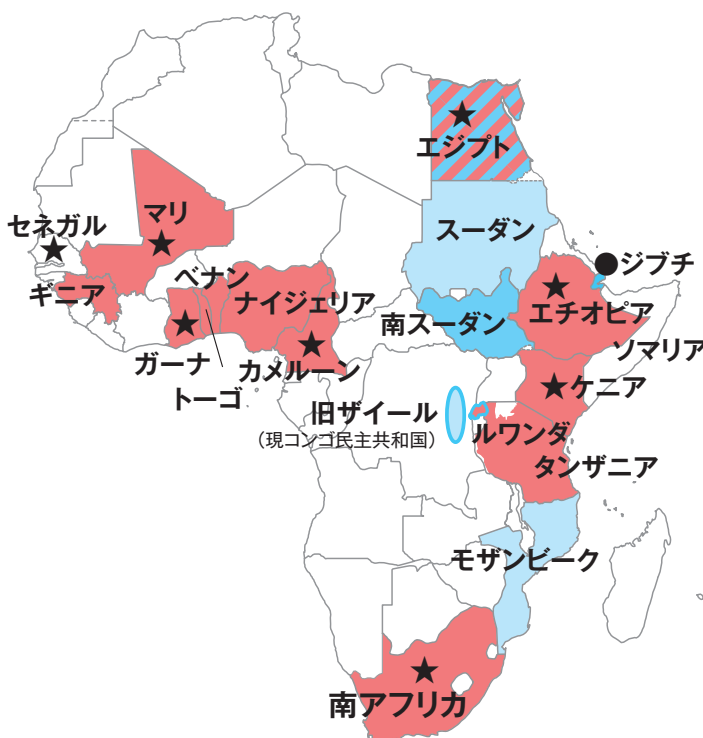


写真提供:防衛省

2009年から、ソマリア沖・アデン湾での商船の安全航行の確保のため、日本の護衛艦・哨戒機が活動しています。日本を含む各国の活動は海賊事案等の減少に大きく貢献しています。



写真提供:防衛省



エチオピア平和支援訓練研究センター

エチオピア平和支援訓練センター(当時)の設立に際し、日本の自衛官が派遣され、国際コンサルタントとして、同センターで行われるPKO活動に必要な教育コースのカリキュラムの策定を行い、現地関係者から高い評価を受けています。



写真提供:防衛省

国連三角パートナーシッププロジェクトを通じた支援

国連、支援国及び要員派遣国の3者が互いに協力し、国連PKOに派遣される要員の訓練や、装備品の提供を行う同プロジェクトを日本は主導しています。この枠組みの下、自衛官等を教官として派遣し、アフリカ諸国の施設要員(道路整備等を実施)の能力構築をしています。この支援を通じ、国連PKOに派遣された施設部隊が早期に展開できるようになることを目指します。2019年には医療訓練も開始されました。

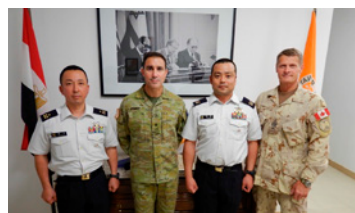


写真提供:防衛省

多国籍部隊・監視団(MFO)で活躍する自衛隊

エジプトのシナイ半島で平和維持活動を行うMFOに、2019年4月から、自衛官2名が派遣され、司令部要員として活動しています。

写真提供:内閣府



- 現在、自衛隊から司令部要員を派遣している国
- 現在、自衛隊等が活動している国
- これまでに日本がPKO訓練センターを支援した国
- これまでに自衛隊等が活動した国・地域
- ★ 日本人講師を派遣した国

チャド

チャド湖

7000年前には33万km²の巨大な湖であったチャド湖。現在の面積は1,350km²で、消失が危惧されるほど急速に縮小しています。

中央アフリカ

マノウォ・グンダ・サン・フローリス国立公園

面積1万7,400km²という広大な国立公園。北部の氾濫原には多くの水鳥が、南部のサバンナにはアフリカソウヤウクロサイ等が生息。

チュニジア

ハリッサ

赤唐辛子をベースに、コリアンダーやクミン等のスパイス、にんにく、オリーブオイル等を加えて作る万能調味料。クスクスに添えて。



トーゴ

ドイツ文化

旧宗主国ドイツの影響を受け、ビールとソーセージの美味しさは天下一品! アフリカNo.1との呼び声が高いビールを生産しています。

日本が主導するアフリカ開発 TICAD

アフリカ開発会議

TICAD led by Japan, toward TICAD8

壮大な自然と多様で豊かな文化が息づく大陸。近年、経済も成長し、躍動するアフリカ。しかし、貧困や紛争、テロなど、世界が直面する多くの問題も集中しています。これらの課題を解決するため、日本は国際社会の責任ある一員としての役割を果たしたいと考えています。アフリカと友好な関係を築くことは、日本外交の基盤強化につながり、アフリカの豊富な天然資源や約12億人以上の市場は、日本企業にとっての大きなビジネスチャンスをもたらします。1993年以降、四半世紀以上にわたって日本はTICADを通じてアフリカ開発支援を主導してきました。日本とアフリカはともに手を携え、大切なパートナーとして前進しています。

アフリカ開発会議 (TICAD)とは

TICADとは、Tokyo International Conference on African Developmentの略称で、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本が主導し、国連や国連開発計画（UNDP）、世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC）と共同で開催しています。2013年のTICADVまでは、5年に1度、日本で開催していましたが、2016年のTICADVIから、3年に1度、日本とアフリカで相互開催しています。これに加え、閣僚級のフォローアップ会合を開催しています。2019年8月には横浜でTICAD7が開催され、アフリカの開発について幅広い議論を行いました。



TICAD7閉会式で演説する安倍総理

●TICADの歩み

1993

TICAD I

(第1回アフリカ開発会議、東京)

「東京宣言」を採択。冷戦終結後、国際社会のアフリカへの関心が薄れる中、アフリカ開発への関心の再喚起に貢献。

1998

TICAD II

(第2回アフリカ開発会議、東京)

数値目標を含む優先的政策行動を明記した「東京行動計画」を採択。TICADの基本原則である「オーナーシップ（自助努力）とパートナーシップ」の理念が確立。

2003

TICAD III

(第3回アフリカ開発会議、東京)

TICADプロセスの将来への方向性と重点的アプローチを示す「TICAD10周年宣言」を採択。「人間の安全保障」が注目を浴びる。24名の国家元首、首脳を含む1,000名以上が参加。

2008

TICAD IV

(第4回アフリカ開発会議、横浜)

「横浜宣言」を採択し、「横浜行動計画」及び「TICADフォローアップ・メカニズム」を発表。アフリカ51か国（41名の国家元首・首脳級）、開発パートナー国及びアジア諸国34か国、77の地域・国際機関代表、民間セクターや市民社会代表等、3,000名以上が参加。

2013

TICAD V

(第5回アフリカ開発会議、横浜)

「横浜宣言2013」、「横浜行動計画2013-2017」を採択。アフリカ51か国（39名の国家元首・首脳級）、開発パートナー諸国及びアジア諸国31か国、72の地域・国際機関の代表、民間セクターや市民社会の代表等、過去最大の約4,500名以上が参加し、日本が主催する最大規模の国際会議となりました。

2016

TICAD VI

(第6回アフリカ開発会議、ナイロビ)

TICAD史上発のアフリカ開催（ケニア、ナイロビ）。「ナイロビ宣言」、「ナイロビ実施計画」を採択。アフリカ53か国、開発パートナー諸国及びアジア諸国、国際機関及び地域機関の代表、民間セクター及びNGO等市民社会の代表等、11,000名以上が参加。

2019

TICAD 7

(第7回アフリカ開発会議、横浜)

42名の首脳級参加者（過去最大）を含むアフリカ53か国、52か国の開発パートナー諸国、108の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、10,000名以上が参加。TICAD史上初めて民間企業を公式なパートナーとして位置つけるなど、ビジネス促進が議論の中心となり、「横浜宣言2019」を採択し、「横浜行動計画2019」をその付属文書として発表しました。

13

素顔の アフリカ

ナイジェリア

ハリウッド

ハリウッド、ボリウッドと並ぶ映画産業地。映画館での上映ではなく、主にオンラインやDVDで視聴されているところが特徴。

ナミビア

ナミブ砂漠

世界最古（約8,000万歳）と言われる世界一美しい砂漠。日の出、日の入り前後に赤く染まり、幻想的な風景が楽しめます。



ニジェール

トゥアレグの人びと

ラクダのキャラバンを率いて砂漠を旅するトゥアレグの人びと。ターバンを巻き、青い民族衣装を着ているため「青の民」とも呼ばれます。



(出典:首相官邸ホームページ)

2019年8月28日～30日、横浜でTICAD7が開催されました。
次回TICAD8は2022年、アフリカで開催予定です。

TICAD 7

TICAD7では、「アフリカに躍進を!ひと、技術、イノベーションで。」とのテーマの下、「経済」、「社会」、「平和と安定」の3分野を議論の柱として、日本やアフリカ諸国、開発パートナー諸国、国際機関、民間セクターやNGO等の市民社会の代表が議論を行いました。



(2019年8月28日～30日)



TICAD7期間中に開催された「アフリカの角及び周辺地域の平和と安定特別会合」(出典:内閣広報室)

TICAD 7における議論

「アフリカに躍進を!ひと、技術、イノベーションで。」というテーマのもと、6つの全体会合(①開会式、②民間セクター育成やイノベーションを通じた経済構造転換の加速とビジネス環境整備、③官民ビジネス対話、④持続可能で強靱な社会の深化、⑤平和と安定および⑥閉会式)と5つのテーマ別会合(①科学技術イノベーション、②人材育成・若者のための教育、③農業、④気候変動・防災、⑤ブルーエコノミー)、及び4つの特別会合(①サヘル地域の平和と安定に関する特別会合、②アフリカの角及び周辺地域の平和と安定特別会合、③西インド洋における協力特別会合及び④主要国際機関の長との昼食会)が開催されました。また、約140件のセミナーや約100件の展示など過去最大規模の多彩なサイドイベントが開催されました。

包摂的なフォーラムとしてのTICAD

TICADは日本が主導し、国連や国連開発計画(UNDP)、世界銀行、アフリカ連合委員会(AUC)と共同で開催しています。また、TICADはアフリカ諸国のみならず、開発に携わる国際機関、パートナー諸国、アジア諸国、民間企業、市民社会も参加するマルチの枠組みです。これにより、国際社会が広く知恵と努力を結集し、真にアフリカの開発にとって実のある議論を行ってきました。



ブルキナファソ

バイク
ブルキナファソという国名は現地語で「高潔な人々の国」の意。路上が自転車やバイクであふれても、駐輪場では驚くほどの整列駐車!



ブルンジ

紅茶
隣国ルワンダと同じように、丘の連なる高原の国。その地形を活かして栽培されたコーヒーや紅茶が、日本にも輸入されています。

ベナン

ブドゥー教
ベナンはブドゥー教発祥の地。日本の八百万の神に似て、ブドゥー教にも鉄の神様や蛇の神様といったユニークな神様がいっぱい!

ボツワナ

チヨベ国立公園
北東部に広がる1万1,000km²の国立公園には、約12万頭のゾウが生息。チヨベ川のリバークルーズではカバやワニを見ることも。

TICADプロセスの発展

アフリカ開発会議

Development of TICAD Process

TICAD7でのビジネス関連 イニシアティブ

日本とアフリカとのビジネス関係促進を目的として、日本の官民がアフリカビジネスに関する情報共有・意見交換を行う常設のフォーラムとして、TICAD7直前の2019年6月に「アフリカビジネス協議会」が設立されました。インフラ、農業、ヘルスケア、中小スタートアップ等の分野別ワーキンググループが設けられ、対アフリカビジネス促進に向けて活発な議論が行われています。

TICAD7では、躍進するアフリカとともに成長するパートナーと捉え、全体会合3を「官民ビジネス対話」として、TICADの歴史上初めて、日本とアフリカの民間セクターが正式なパートナーとして参加しました。日本側からは、アフリカビジネス協議会の具体的な取組等を紹介し、アフリカ側からは日本の民間企業とのパートナーシップへの強い期待が表明されました。

更に、アフリカで事業活動を行う民間企業が直面する様々な課題を解決するためのメカニズムとして、「二国間ビジネス環境改善委員会」が、エジプト、ガーナ、ケニア、コートジボワール、セネガル、ナイジェリア、南アフリカの7か国との間で立ち上げられました。



TICAD7で採択された「横浜宣言2019」

TICAD7の成果文書として採択された「横浜宣言2019」では、TICADの特徴であるアフリカのオーナーシップ、国際社会によるパートナーシップ、包摂性および開放性を確認しつつ、人間の安全保障と人間開発に向け、質の高いインフラ、民間セクターによるインパクト投資、マクロ経済の安定、イノベーション、気候変動対策、防災、人材育成、制度構築における日アフリカ間の協力の重要性を確認しました。



●●●●●●●●●● ABEイニシアティブ ●●●●●●●●●●

アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ「ABEイニシアティブ」(African Business Education Initiative for Youth)は、アフリカの産業人材育成と日本企業のアフリカビジネスの水先案内人となるような人材の育成を目的とし、JICAを通じて、TICAD V以降の6年間で54か国から約1,300人のアフリカの若者を日本に招き、日本の大学での修士号取得と日本企業でのインターンシップ実施の機会を提供しています。また、将来の職長や工場長などの現場人材を育成する取組も行っており、AOTS等を通じて、2016年からの3年間で約1,500人の現場人材を受け入れています。



例えば、セネガルから来日したジョセフさんは、立命館アジア太平洋大学で経営学を専攻し、修了後は、セネガルでの事業展開を検討していた包装資材を製造する日本企業でインターンを経験しました。ジョセフさんは帰国後にビジネスコンサルティング会社を起業し、この日本企業のセネガルでのビジネス展開に向けた現地調査を実施するなど、現地でのビジネスパートナーとして活躍しました。

ABEイニシアティブをきっかけにアフリカでのビジネスを進める日本企業も増加しており、2019年に横浜で開催されたTICAD7では、ABEイニシアティブの更なる継続・拡充が表明されました。今後もABEイニシアティブに参加したアフリカの若者たちは、日本企業の水先案内人として活躍することが期待されます。

15

素顔の アフリカ

マダガスカル

豊かな動植物

独自の動植物相を持ち、「星の王子様」に登場するバオバブのほとんどがマダガスカルの固有種。バニラの世界最大生産地。



マラウイ

マラウイ湖

国土の約5分の1を占めるマラウイ湖には500種類以上の魚類が生息し、そのほとんどが固有種。南端のマラウイ湖国立公園は世界遺産。



写真提供 吉田勝美 / JICA



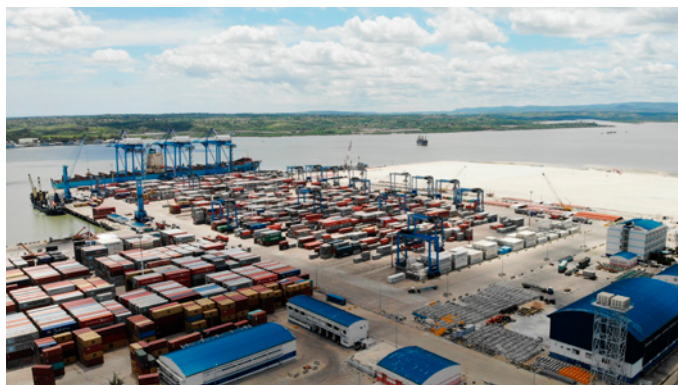
写真提供:今村健志朗/JICA

TICAD7における「日本の取組」

日本はTICAD7において、日本らしい施策を集めた「日本の取組」を発表しました。

経済

200億ドルを超える民間投資の拡大に向けアフリカにおけるビジネス環境改善に貢献するとともに、企業の進出とイノベーションを促進するとともに、質の高いインフラ整備、人材育成等の取組を実施していきます。



ケニア モンバサ港開発計画 (写真提供:東洋建設)

社会

生活の向上や経済成長の基盤となる人間の安全保障とSDGsの実現に向けて、強靱かつ持続可能な社会の構築に貢献します。



スーダン 助産師キットを抱える村落助産師 (写真提供:JICA)

平和と安定

経済成長・投資や生活向上の前提となる平和と安定の実現に向けたアフリカ自身による前向きな動きを後押しすべく、AU等主導の調停・紛争解決努力や制度構築支援を行う「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ (NAPSA)」を実施するとともに、日本らしい支援、特に地道で息の長い人づくり支援を行います。

コンゴ(民) 市民と平和のための警察研修実施能力強化プロジェクト (写真提供:JICA)



マリ

グリオ

「グリオ」と呼ばれる世襲制の音楽家の家系があり、祭りや祝い事には彼らが呼ばれ、楽器を演奏しながら一族を讃える歌を歌います。

南アフリカ

故ネルソン・マンデラ元大統領

政治犯として投獄されたロベン島刑務所で、同志と英語等を学び合っ土気を保ったという話は「ロベン島大学」として語り継がれています。

南スーダン

全国スポーツ大会

独立後初となる全国スポーツ大会を首都ジュバで開幕。南スーダンに派遣された自衛隊派遣施設隊と日本企業が、グラウンドを整地。



写真提供:JICA

モザンビーク

モザンビーク島

インド洋貿易の中継地、キリスト教伝道の拠点となった島。1586年には天正遣欧少年使節一行が日本へ帰る途中に立ち寄っています。

アフリカ、それは「いの

様々な民族が交錯した痕跡を独特の文化として残す、北アフリカのマグレブと呼ばれる一言では表しきれない多様性がアフリカの魅力。音楽やダンス、スポーツからも、「いの

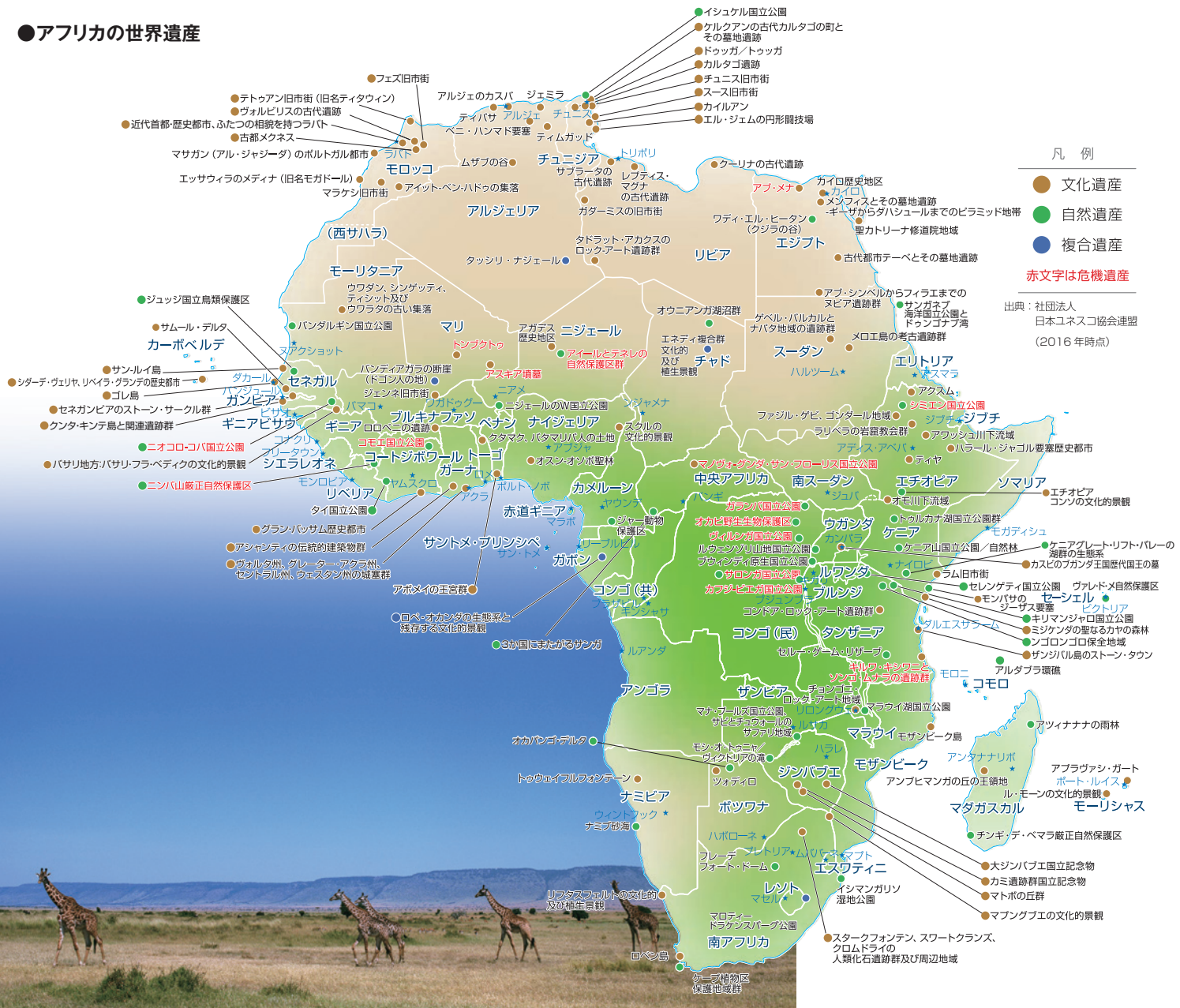
文化・スポーツ Africa, the Power of Life



写真提供レイモンド・ウィルキンソン/JICA

●日本の支援で建設された小学校の完工式で伝統舞踊を披露する女性たち

●アフリカの世界遺産



17

素顔の アフリカ

モーリシャス
リゾート
「インド洋の貴婦人」と呼ばれ、ヨーロッパで人気の高級リゾート地。日本では、遠洋マグロ漁業の中継・補給基地として知られています。



モーリタニア
カラスミ
モーリタニアの隠れた名産品が、高級珍珠のカラスミ。日本で購入するより安価で、喜ばれるお土産となっています。

モロッコ
タジン鍋
日本でもブームになったタジン鍋料理。モロッコではジャガイモやニンジン等の野菜とソースを鶏肉や羊肉と一緒に煮し煮にします。

「ち」の鼓動

地域。そして、砂漠から熱帯雨林まで厳しくも豊かな自然の宝庫、サブサハラ・アフリカ。「ち」の鼓動が聞こえてくるようです。



写真提供 AP / アフロ

●日本中が応援したサッカー・ワールドカップ南アフリカ大会(2010年)

知られざる観光大陸 また行きたくなるアフリカ



写真提供 南アフリカ観光局

●サファリ

サバンナでのゲーム・ドライブはもちろん、最近ではポートに乗ってカバやワニを見に行く水上サファリや、野生のペンギンが間近で見られる南アフリカのホルダーズ・ビーチも人気に。



●ビーチリゾート

意外に知られていないのが、海の美しさ。例えば、ケニアのモンバサ、タンザニアのサンジバル島、マダガスカルの新シベ島。透明度の高い海と白砂のビーチ、手付かずの大自然を満喫できます。



●泥のモスク

マリ文化遺産「ジエンネ旧市街」のシンボルが、独特のフォルムを持つ泥のモスク。ニジュール川が運んできた泥を、年に一度、町の人々が総出で壁に塗り、モスクの化粧直しを行います。



©Conservation International / photo by Russell A. Mittermeier

●希少な動植物

生物多様性豊かなマダガスカル島。ここ10年余の間に600種以上の新種の野生生物が発見されています。体重30g・世界最小の霊長類マダムベルテネスミキツネザルもその一つで、絶滅危惧種。

スポーツ界でも 強いアフリカ続々!



写真:PA Images / アフロ

●ラグビー

南アフリカのラグビーは世界トップクラス。2015年のワールドカップでは日本が南アフリカに勝利し、「ブライトンの奇跡」として話題に。2019年日本大会では南アフリカは3度目の優勝を果たしました。



●セネガル相撲

相撲というよりはレスリングに近い、セネガルの伝統的な格闘技。非常に人気があり、試合はテレビ中継され、チャンネルは文字通り国民的なヒーローに。試合前には魔除けの儀式も行われます。



©AP / アフロ

●マラソン

男女ともにマラソンの上位記録10名は、ケニアとエチオピアの2カ国でほぼ独占するほどの強さを誇ります。写真は1964年東京五輪の金メダリスト、エチオピアの「裸足のアベベ」ことアベベ・ビキラ選手。



●日本武道

アフリカでは柔道や空手が人気。例えば、ボツワナの空手の競技人口は約6,000人で、世界大会で入賞する選手も輩出。また小中学校でも青少年教育の一環として空手が盛んに行われています。

暮らしを知る アフリカに触れる



写真提供 今村健志朗 / JICA

●コメが主食

アフリカには日本以上にコメをたくさん食べる国があります。西部アフリカの国々では古くからコメを食べる習慣が定着しており、中でもセネガルの炊き込みご飯「チェブジェン」は有名。



写真提供 鹿児島県三島村

●ジェンベ

アフリカの代表的な伝統楽器「ジェンベ」。ジェンベの神様と言われるギニア出身のママディ・ケイタ氏は、1994年から毎夏、鹿児島県三島村(硫黄島)で子どもたちにジェンベを教えています。



写真提供 たほこ塩の博物館

●サハラの岩塩

サハラ砂漠の真ん中、マリ北部のタウデニ地方に広がる岩塩の鉱床から切り出された岩塩は、ラクダのキャラバンによって南に運ばれ、金と交換されていました。岩塩は今もサハラの重要な交易品。



●カンガ

鮮やかで大胆なデザインの花柄をお洒落に着こなすアフリカの女性たち。東部アフリカの「カンガ」には1枚1枚に異なるメッセージがプリントされており、この言葉も大切な布選びのポイント。

リビア

リビアヤマネコ

ペットとして飼われているイエネコの祖先。アフリカヤマネコとも言われ、体長約60cm、小型ほ乳類や鳥類、爬虫類等が捕食対象。

リベリア

解放奴隷の国

1847年、アメリカから解放された奴隷によって、アフリカ最初の共和国として独立。国名は自由(Liberty)にちなんでいます。

ルワンダ

ICT

コーヒーやマウンテンゴリラで知られるルワンダですが、ICT立国となることを目指し、若手起業家育成にも力を入れています。

レソト

民族衣装

レソトの民族衣装は多彩な毛布。地方ではバント・ハットという三角錐状の帽子と毛布を身につけた伝統的な格好で暮らす人もいます。



写真提供 駐日レソト大使館



表紙写真提供: 上から1枚目(佐藤浩治/JICA)、3-4枚目(今村健志朗/JICA)

裏表紙写真提供: 上から1枚目「ルワンダの子供たち(写真提供:今村健志朗/JICA)」、2枚目「アンゴラの親子(写真提供:長倉洋海/JICA)」、3枚目「エチオピアの子供たち(写真提供:久野武志/JICA)」、4枚目「ジンバブエのパオバブの木(写真提供:庄司康治/JICA)」、5枚目「ケニアの若いシマウマ(写真提供:久野真一/JICA)」